

①日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

②公開特許公報(A)

昭54—59372

⑤Int. Cl.²
A 47 J 27/04
F 24 C 13/00

識別記号 ⑥日本分類
35 A 521
35 A 53

庁内整理番号 ④公開 昭和54年(1979)5月12日
6566—4 B
7116—3 L

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

④スチームオープン

門真市大字門真1006番地 松下
電器産業株式会社内

①特 願 昭52—123305

⑦出 願 人 松下電器産業株式会社

②出 願 昭52(1977)10月13日

門真市大字門真1006番地

③発 明 者 浜慶樹

⑧代 理 人 弁理士 中尾敏男 外 1 名

明 細 書

1、発明の名称

スチームオープン

2、特許請求の範囲

スチームオープン本体と、この本体内に設けたオープン庫とを備え、上記オープン庫は外層と内層とにより構成し、上記内層の壁面に複数のスチーム供給孔を設けるとともに、この内層と上記外層との間隙にスチームを供給することを特徴とするスチームオープン。

3、発明の詳細な説明

本発明はスチームオープン、特にそのスチーム供給構造に関するもので、その目的とするところは調理物に加熱むらがおきるのを防止することとこの調理物に水滴が滴り落ちてべとついてしまうのを防止することと、オープン庫内が油分によって汚れてしまうのを防止することにある。

現在実用化されているスチームオープンではオープン庫の壁面に1個スチーム供給口を設け、この供給口からスチームを供給している。

このため、オープン庫内においてどうしても上記スチーム供給口に近い部分と遠い部分ではスチームの影響力が異なることとなり、これにより調理物に加熱むらが生じているのが実状である。

また、オープン庫の壁面温度は低いのでこれにスチームが当たると同部で露結してこれが調理物に滴り落ちてべとつかせてしまっているのも実状である。

そこで本発明は外層と内層とによりオープン庫を構成し、上記内層の壁面に複数のスチーム供給孔を設けるとともに、この内層と上記外層との間隙にスチームを供給し、これにより上記欠点を解消して初期の目的を達成しようとするものである。

以下、本発明の一実施例を添付図面にもとづいて説明する。

図面において、1はスチームオープン本体で、この本体1の内部にはオープン庫2が設けられ、さらにオープン庫2の前面開口部にはドア3が開閉自在に設けられている。

上記オープン庫2は外層2aと内層2bとによ

り構成され、内層 2 b の壁面には複数のスチーム供給孔 A が設けられている。

また、上記内層 2 b と外層 2 a との間隙にはボイラ 4 で発生させたスチームが供給されるようになっている。

なお、この図面の 5 はボイラヒータ、6 は上ヒータ、7 は下ヒータ、8 は水抜口、9 は水受容器である。

上記構成において、ボイラ 4 内には U 字管の原理により水が矢印 A のごとく供給され、これがボイラヒータ 5 で加熱されてスチームとなる。

そして、このスチームは内層 2 b と外層 2 a との間隙に供給され、次に内層 2 b の壁面に設けた複数のスチーム供給孔 A から内層 2 b 内に噴出しこれにより同内層 2 b 内でスチーム調理が行われる。

以上のように本発明は内層の壁面に設けた複数のスチーム供給孔から同内層内にスチームを供給するものであるから、調理物には上下、左右、前後からスチームが噴き付けられることとなり、こ

の結果調理物に加熱むらがおきることはない。

また、内層の壁面に設けた複数のスチーム供給孔からスチームが供給されるので結果として内層の壁面は高温となり、この結果、従来のようにこの壁面でスチームが凝結し、それが調理物に滴り落ちてべとつかせてしまうことはなくなる。

さらに、内層の壁面は肉汁等によつて汚れやすいが、本発明によれば内層の壁面に設けた複数のスチーム供給孔からスチームが噴出するので、この汚れをスチーム洗浄することができ、常にオープン庫内を清潔に保つことができる。

4、図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例にかかるスチームオープンの断面図である。

1 ……スチームオープン本体、2 ……オープン庫、2 a ……外層、2 b ……内層、4 ……ボイラ A ……スチーム供給孔。

代理人の氏名 弁理士 中 尾 敏 男 はか1名。

